

# 私の一文字

地域共創委員会  
(PFI担当)委員長代理  
**地下 誠二**

日本政策投資銀行  
取締役社長



## 「鬱」からポジティブなエネルギーを得る

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、地下誠二地域共創委員会 (PFI担当) 委員長代理にご登場いただきました。

**岡西** 「鬱」の成り立ちには本来、「盛んになる」という意味も含まれていますので、最後の一画を盛り上げるように書いてみました。この文字は、お酒が入った甕かめの中に香草を入れてふたをし、熟させて香りが立ち上ってくるさまを由来としています。ふさがれ、そこから盛り上がる、まさに表裏一体の様子を表現したいと思いました。

**地下** この字を選ぶと誤解を受けそうで迷ったのですが、初めて見た時からポジティブなエネルギーを感じていました。おそらく小学校の時だったと思うのですが、「鬱蒼とした」という表現から、ジャングルのように「枝が生い茂る」イメージを持ったのです。後に「鬱々とする」という負のイメージがあることも知ったのですが、むしろ両面性、いろいろなことが考えられるという点にも引かれました。

**岡西** 「鬱蒼」という使われ方はまさに、蓄積され、盛り上がるポジティブさを表しているように思います。

**地下** 複雑で見通しが利かない中では、いろいろな選択肢を前に迷います。VUCAの時代とよく言われますが、何が正解か分からない中で選択して進んでいくところに、混沌としたエネルギーも生まれます。「鬱」はそうした状況にも重なる漢字だと思っています。

**岡西** あえて「鬱という文字を書く時間」を取ることがある、と伺ったのですが、どのようなときでしょうか。

**地下** 決断を前にして考えあぐねてしまうようなときに、一度冷静になったり、自分を励ましたりするために書くことがあります。もちろん毎日ではないですよ。書くことで煮詰まった頭が解け、また考えようという気になります。

**岡西** 自分と向き合う時間ということですね。私も好きな文字をしたためて、気持ちを整えることがあるので共感します。お仕事の特性も影響しているのでしょうか。

**地下** 金融の仕事は、投資先と共に成長できる醍醐味がありますが、投資一つひとつにおいては、まさに「鬱蒼とした」状態が生まれます。今後の可能性としていくつも選択肢があって、どれが良いかが明確ではない。しかし、そこで判断してチャレンジしていくところに、ポジティブなエネルギーが生まれてくると思っています。

**岡西** 「鬱蒼とした」ことに真剣に向き合ってきた様子が、本日のお話からも伝わってきました。最後に、地域共創委員会の活動についても教えていただけますでしょうか。

**地下** 今後、人口減少の影響を受ける地域が多くなると思いますが、その中で皆が誇りを持って働き、暮らしていける社会にしていきたいと思っています。委員会メンバーのみならず、各会員の所属する企業の方々にも協力してもらいながら、私たちも各地に出向いて、シビックプライドを共に創っていきこうと、活動に取り組んでいるところです。



書家  
**岡西 佑奈**

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。